

平成28年度 千島学説研究会大阪セミナーに向けて 平成28年9月10日

現代医学・医療の内実を問う

——身体は病気を治そうと、もがいている。治療を導くコト、モノを探る——

今夏も、9月半ばを過ぎようとしています。例年なら、残暑に耐えているのですが、あまりその兆しがありません。会員の皆様のお住いの辺りは、いかがですか。

今、大阪セミナーは、会場の確保に手間取り1日のみの開催となりました。

今回のセミナーのテーマは、現代医学・医療の内実を問いつつ、病気治療のコト(病気の性質、状態、変化)・モノ(実際に見たり触れたりできる対象)を幾らかでも明らかにしたい思います。

現代医学・医療(西洋医学・医療)とは、いったい何者か。

9月2日の朝刊は、『はしか 感染拡大恐れ 関東から関東へ? 封じ込め急務 一週間で患者27人』強い感染力を持ち、高熱や発疹などの重い症状が出るはしか(麻疹)の発症者が直近の一週間で30人近く報告されている、と報道。

また、次のように解説している。はしか 麻疹ウイルスによる感染症で、感染すると10~12日の潜伏期間を経て熱やせき、鼻水などの風邪のような症状が表れる。目やにや目の充血が多くみられ、発熱から2、3日後に顔や体に発疹が出ることが多い。重症化すると肺炎や脳炎などの合併症を起こし、死亡することもある。さらに、はしかは感染力が強く、手洗いやマスクで防ぐのは難しい。**感染拡大を防ぐには、『強い感染力 マスクでは防げず 予防法ワクチンのみ』。予防接種を受けるほか患者が周囲に、広げないことがかぎとなる、と説明。**

はしか(麻疹)の恐怖を煽り、予防法はワクチンのみという。

そもそも、はしか(麻疹)とは何か。かつて、私たちの父祖は子が『はしか』に罹ることを、自然の摂理として、心待ちしたものです。胎児は母親の胎内で100%動物性の成分に囲まれた世界で成長します。生を受けて、すぐ母乳を飲みます。母乳も母親の胎内の血液で造られた動物性の飲み物です。

乳幼児が心身とも健やかに育つためにも、妊娠中や母乳から入った、この動物性の成分を『はしか』によって乳幼児の体内から排泄することが必要です。発熱、くしゃみ、咳、鼻水、目やに、発疹などの症状は、体内に蓄積された不要物・老廃物、いわゆる毒素を排泄するための症状です。

まことに、有り難い症状なのです。ですから、自然に排泄すればよいのです。自然に経過を待てばよいのです。ですが、より症状を穏やかにするためには、『大根おろし汁入り玄米スープ』を飲ませればよいのですが、これでは子どもには飲みにくいので、果汁(リンゴジュース)を適宜。これではしかは治療します。

ところが、現代医療・医学は、**極度にはしかを恐れ、ウイルスのせいにし、感染症と断定。ワクチンを勧めます。ワクチンは成分を見ればわかるように毒物**です。ワクチン(予防接種)で感染症が予防できた事実はないのです。子宮頸ガンワクチンの例を見てもわかるように、悲劇が絶えないのです。なぜ、そんなワクチンを医療専門家は推奨するのでしょうか。そうした現実を見据えて、私たちの道を歩めなければならないのです。ワクチンについては『螺旋』に書いています。

今セミナーは、この医学・医療の実態(現実)を見据えて、治療への道筋を、具体的に、実際に治療経験を持つ先生方の話を伺い、私たちの生きる上での糧になればと思います。

我が子の病を癒そうとの母親の強い想いから、療術師(治療家)に転じた、柳原能婦子先生にもお越し頂きます。

また、『心労』こそが、病をつくり、病気の治療を遅らせ、悪化させる大きな原因であること。その『心労』を如何に取り除くかも遡上にのせたいと思います。

平成28年度 千島学説研究会大阪セミナー
現代医学・医療の内実を問う
— 身体は病気を治そうともがいている。治癒を導くコト・モノを探る —

1、日 時 平成28年11月12日(土) 午前10時より午後5時30分(受付開始9時20分～)

2、会 場 大阪国労会館3F 中会議室(地図参照) TEL 06-6354-0661

- ・JR 環状線天満駅下車徒歩5分
- ・地下鉄堺筋線扇町駅下車徒歩6分

3、会 費 ・会員 3000円 ・非会員3500円

参加申し込みは予約制です。メール、TEL、faxにてご連絡頂ければ、郵便振替用紙をお送り致しますので、事前に参加費を郵便振替口座にお振り替え下さい。お振り替えをもって参加と致します。宜しくお願ひします。尚、会場の都合上、定員は60名で締め切らせて頂きます。

・口座名 千島学説研究会 口座番号 00970-6-63467

主催 千島学説研究会

・セミナー実行委員長 増本勝久 (副代表理事・(株)ホワイトマックス会長)
副実行委員長 高橋秀明 (理事)

・セミナー学頭 酒向猛 (理事・医師)
副学頭 小松健治 (副代表理事・あうん健康庵・医師)
大杉幸毅 (理事・血液循環療法協会会長)

連絡先 千島学説研究東京事務局 仁志天映 病癒し所『天心』

〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘1-19-2、4-6-106 TEL&FAX 045-902-2034

携帯 090-2328-7016 e-mail:nishi-tenei@nexyzbb.ne.jp

会場案内図 〒530-0034 大阪府大阪市北区錦町2-2 大阪国労会館3F



日時 11月12日(土) 午前10時～午後5時30分 受付開始9時20分より

第1部 セレモニー 10:00～10:10

総合司会挨拶 ト部幸子(岡山市・ト部酒造取締役)・あかざえり、栗生隆子(腸美人協会)

開会の辞 増本勝久

代表挨拶 仁志天映

第2部 基調講演 10:10～11:10

『千島学説のもう一つの原理、遺伝と進化の履歴反復性』

酒向猛(理事・医師)

第3部 巻頭講演 11:10～12:10

『母の手』

柳原能婦子(療術師)

—————昼食休憩(12:10～13:20)—————

第4部 会員報告 13:20～16:35

□『ダーウィンの進化論と遺伝学の盲点—自然を観察し千島学を検証—』 (60分)

藤井康三(理事・千島学説実践道場主宰)

□『千島学説理論に基づいた血液循環療法—膝痛、腰痛は自分で治せる—』 (60分)

大杉幸毅(理事・血液循環療法協会会長)

—————休憩(15:20～15:35)—————

□『竹炭による—結界(ご神域)におけるニュートリノの発生と病氣治癒—』 (60分)

新野恵(理事・(株)サクセス・アイ代表取締役)

第5部 『病氣治癒(病氣は治るもの)への道を探る—会員の皆様との対話—』 16:35～17:25

司会・問題提起 仁志天映

第6部 閉会の辞 小松健治

一本締め

杉本徳仁(理事・有機農法家)

◎ 親睦会 (セミナー会場にて) 17:40～19:10

・司会進行 小松伸子(あうん健康庵事務長)・ト部幸子

・挨拶 増本勝久

・乾杯音頭 大杉幸毅

・大いに語ろう

・一本締め

仁志天映